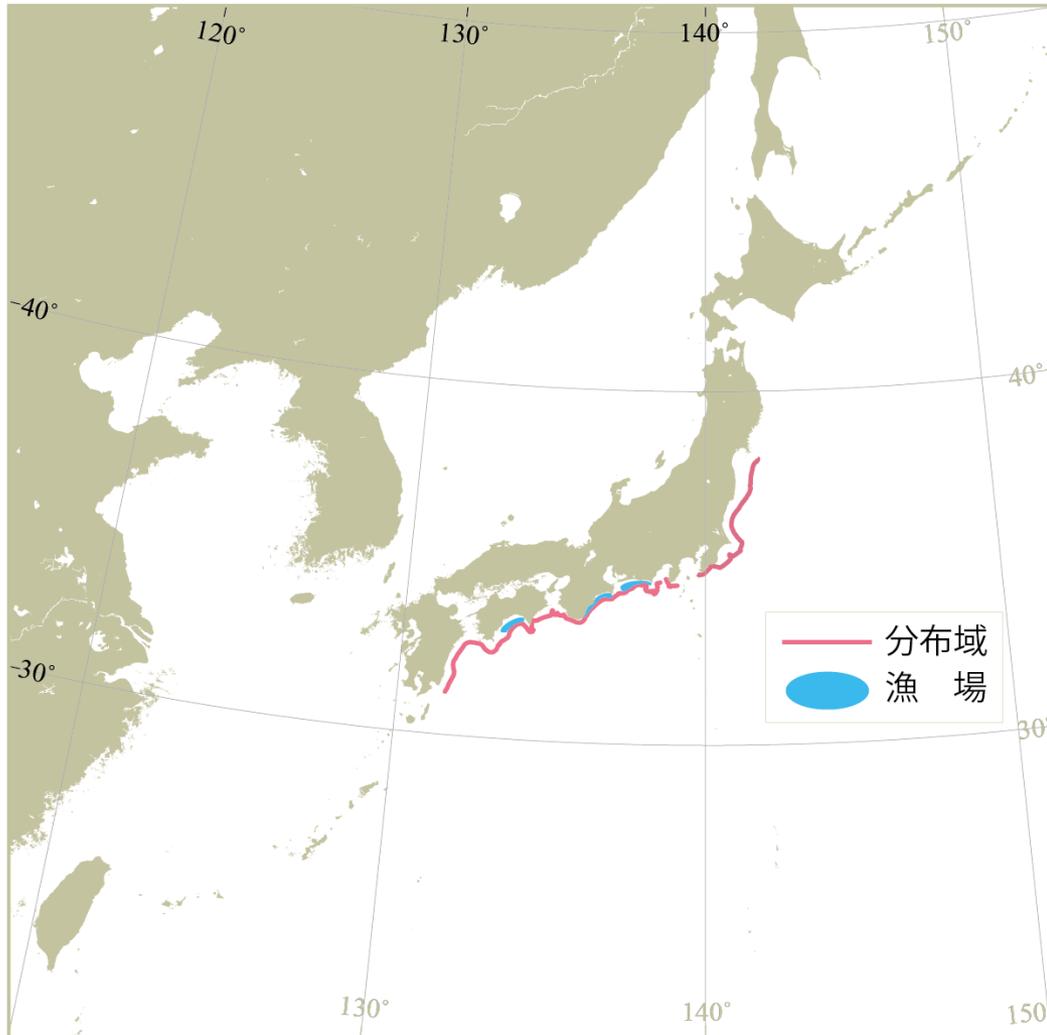




# ニギス太平洋系群 令和4年度資源評価結果

# 生物学的特性

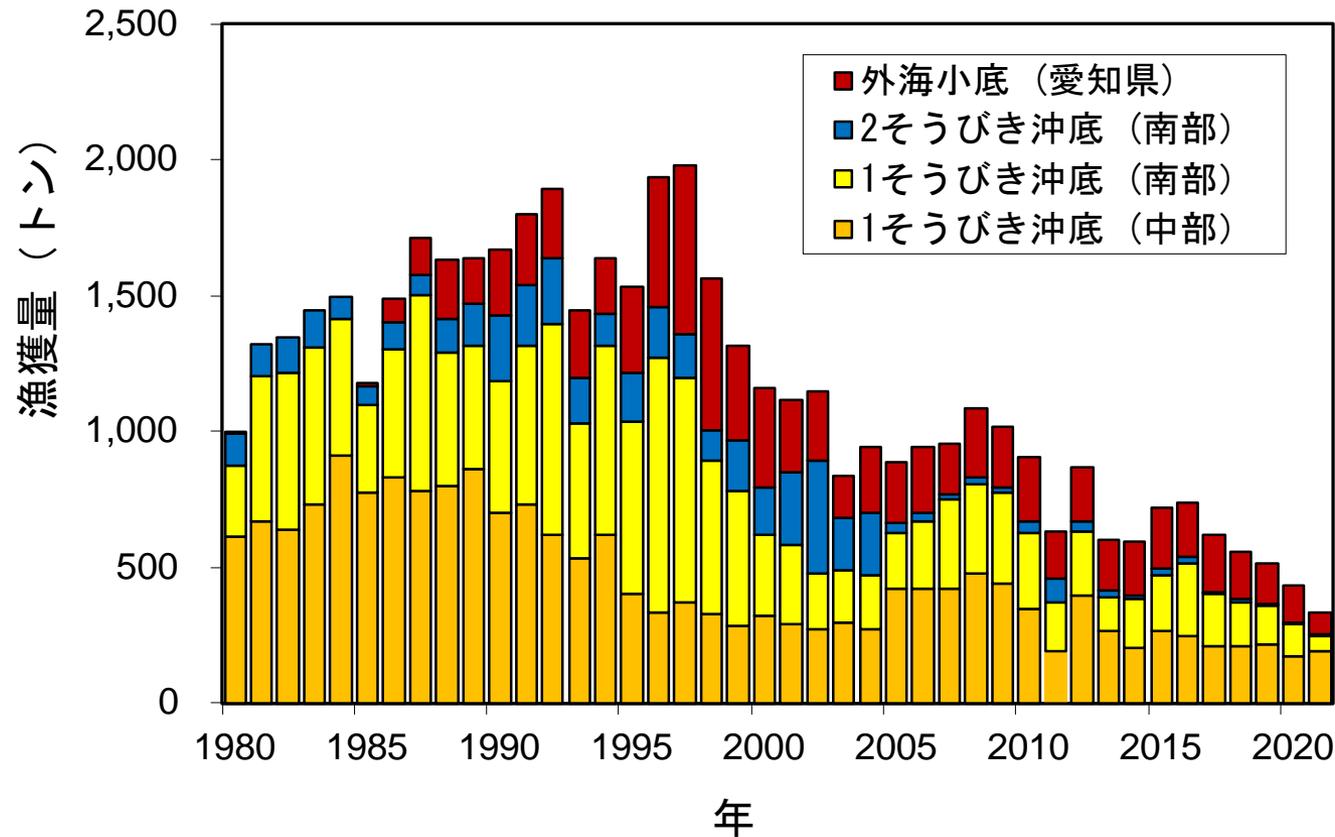


## 生物学的特性

- 寿命：3歳
- 成熟開始年齢：2歳  
(100%)
- 産卵期・産卵場：  
9月を除くほぼ周年、盛期は  
2～3月で11～12月にも小  
さなピークが出現、  
水深200～300mの海底付近
- 食性：  
幼稚魚期は主にカイアシ類、  
成長に伴い主にオキアミ類
- 捕食者：  
中・大型の底魚類

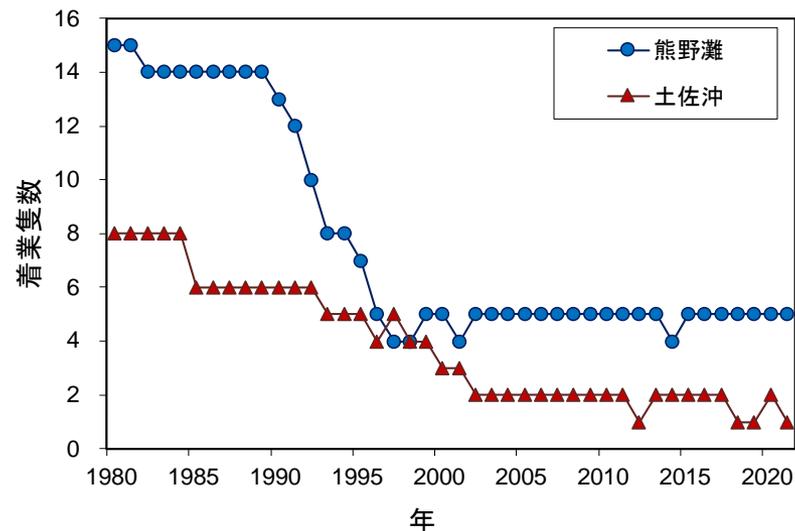
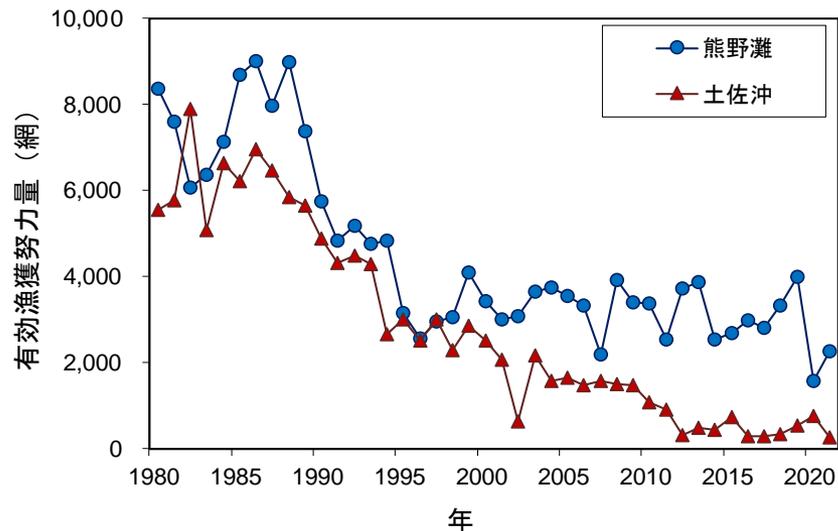
- 本系群の主要な漁場は太平洋の中部海域と南部海域

# 漁獲の動向①



- 2021年の漁獲量：335トン（2020年：436トン）
- 主な漁業種類は1そうびき沖合底びき網漁業（沖底）と愛知県外海小型底びき網漁業
- 漁獲量は1990年代後半から減少傾向が続いている

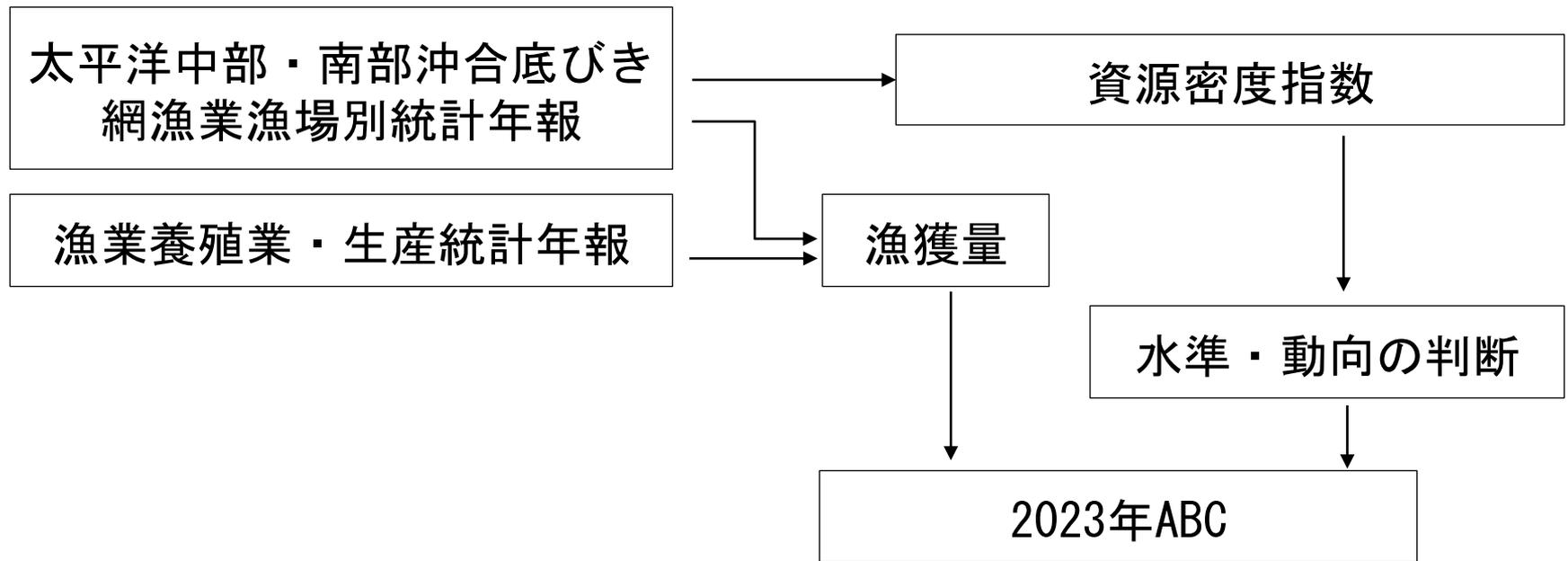
# 漁獲の動向②



- 1そうびき沖底の代表的な小海区における有効漁獲努力量は1980年代は高かったが、その後は横ばい～減少傾向で推移
- 着業隻数も1990年代ごろに大きく減少し、その後は横ばい

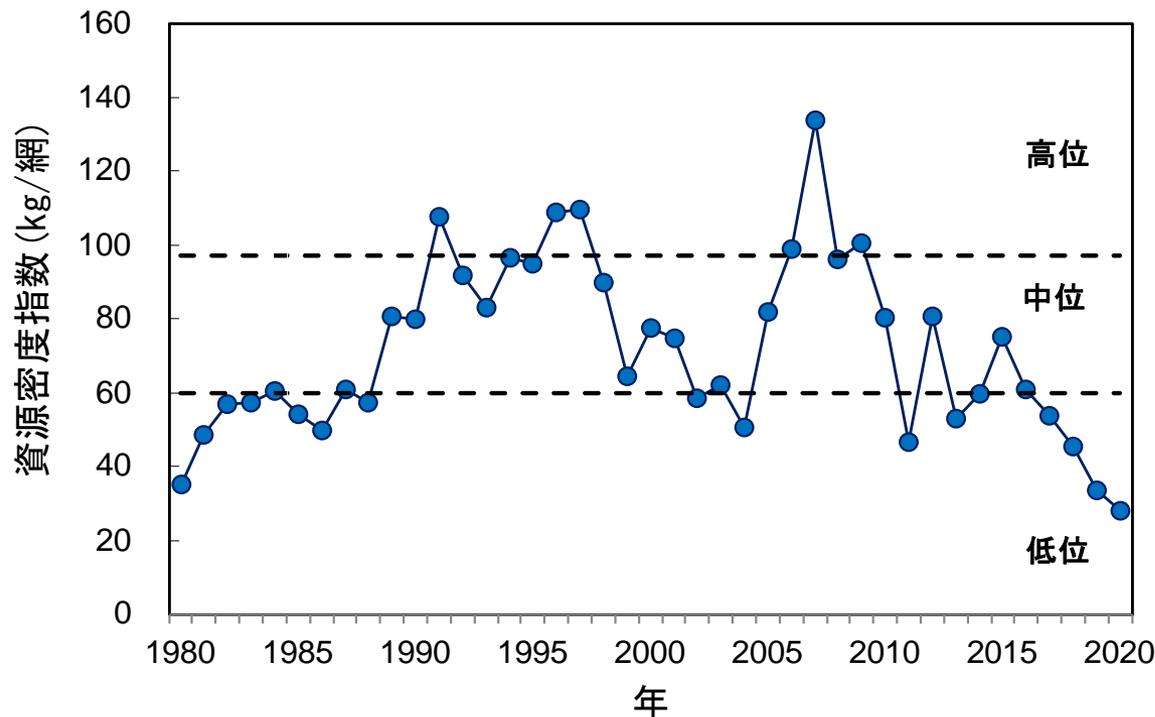
※有効漁獲努力量：有漁漁区数と漁獲量の積を各漁区の1網当たり漁獲量の総和で割った値

# 資源評価の流れ



※資源密度指数：漁獲量を有効漁獲努力量で割った値  
主要漁場のうち操業隻数が安定している熊野灘の1そうびき沖底の値を  
系群全体の資源量の指標値とした。

# 資源の動向



※水準区分 低位／中位：資源密度指数60、中位／高位：資源密度指数97  
(熊野灘における1980年以降の資源密度指数の最大値と最小値の間を3等分して算出)

- 熊野灘の1そうびき沖底の資源密度指数で水準・動向を判断
- 資源水準：2021年の資源密度指数は23であり「低位」
- 資源動向：直近5年間（2017～2021年）の資源密度指数の推移から「減少」

# 資源評価のまとめ

- 資源水準は「低位」、動向は「減少」
- 熊野灘の1そうびき沖底の資源密度指数に基づいて資源状態を判断した

## 2023年ABC

管理基準	Target/Limit	2023年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値(現状のF値からの増減%)
0.7・Cave3-yr・ 0.819	Target	197	—	—
	Limit	246	—	—

- ABC算定規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$  で計算
- $\delta_1$  : 0.7 (低位水準、資源動向が減少である場合の標準値)
- $Ct$  : Cave3-yr (直近3年間(2019~2021年)の平均漁獲量)
- $\gamma_1$  : 0.819 (資源密度指数の直近3年間の傾きと平均値から求める係数)